

飯高の未来 地元住民が考える

スマート農業

獣害

人口減



飯高地域の農地や林地の在り方を話し合う参加者たち＝松阪市の波瀬ゆり館で

名大院 香坂教授の研究室主催

松阪市飯高地域の三十年「ヨッブが十日、飯高町波瀬後の未来を考えるワークショップ」の波瀬ゆり館であった。名

古屋大大学院環境学研究科の香坂玲教授の研究室が主催。地元住民二十一人が参加して、農地や林地と人が暮らす場所との境界の在り方を考えた。

参加者たちはまず、減少が続く飯高地域の人口推移や、獣害被害、労働時間の削減に効果的とされる、人工知能（AI）やドローンなどを活用したスマート農業について説明する資料を熟読。主催者が用意した選択肢から、農地などの今後の在り方を考えた。

選択肢は農地の場合は四点。人手不足で農地面積は減ると見込まれるが、現状の農業を維持し、利用しない農地は将来的に自然にかえす案や、初期コストを投じてスマート農業を導入して農地を維持し、使わない農地では太陽光パネルなど

を設置して再生エネルギー発電所とする案などが紹介された。

参加者はそれぞれで検討し、四、五人ずつのグループに分かれて考えを共有、グループで一つの選択肢を選んだ。参加した福井弘さん（八十八）は「専門家から話を

聞く機会なんてめったにないから良かった。もっと他の世代の多くの人にもこんな機会を広げたい」。香坂教授は「何か気づきを得る機会や、考えを深くするきっかけにもできたら」と話していた。

（清水悠莉子）